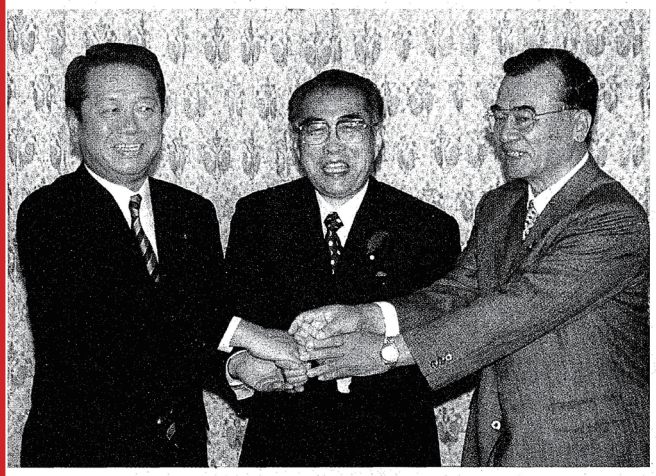
（1）　明治20年創刊　第37542号　（第３種郵便物認可）　（日刊）

連立内閣きょう発足

自自公合意 文相に中曽根氏



小渕恵三首相は四日昼、自由党の小沢一郎党首、公明党の神崎武法代表と首相官邸で会談し、連立政権の合意書に署名した。これを受けて首相は同日夜、人事を発表。同夜までに十八閣僚全員を内定し、金融担当相、文相兼科学技術庁長官は、予想通り中曽根弘文参院議員。五月年後、自自公連立内閣（小渕再改造内閣）が正式に発足する。

首相は宮沢喜一蔵相、堺屋太一経企庁長官を留任させ、政権の最大課題とする「経済再生に引き続き腰を据えて取り組む姿勢を明確にした。さらに来年の主要国首脳会議（沖縄サミット）の成功に向けて、外相経験者で元自民党総裁の河野洋平元外相を起用した。

首相は自公連立政権について「政権運営基盤の安定化を図り、次期総選挙に強くなり、政策面で関係のある公明党を抱えた政権運営では難しい面が出てくるかもしれない」と述べ